

「芸術・文化関連団体等ヒアリング実施結果」(まとめ) ①

		芸術団体		芸術教育機関			市民演奏団体			市民文化団体	まとめ	
種別担当 実施日		日本オペラ振興会 音楽(歌劇) 菅原、山田、石井 5月22日	劇団民藝 演劇 菅原、菅野 5月8日	日本映画大学 映画 東川、金光、武濤 5月20日	昭和音楽大学 音楽 菅原、石井 5月29日	玉川大学 芸術 山田、矢野、武濤 5月17日	和光大学 菅原、菅野、高橋(庸) 6月18日	ゆりがおか児童合唱団 音楽 菅野、高橋(庸)、武濤 5月19日	麻生フィルハーモニー 音楽 金光、高橋(庸)、石井 5月26日	麻生合唱団 音楽 菅原、石井、東川 6月8日	麻生文化協会 文化全般 金光、矢野、武濤 5月23日	まとめ
1. しんゆり・芸術のまち推進の ためのアイデア (第3期提言への意見)	全体	●新百合ヶ丘は素晴らしい文化環境  ●この地域の人々は文化に理解が深い人が多く、今のところ問題を感じていない				●麻生区は新しいまちで、「行くところより、帰るところ」というイメージ ●芸術・文化のまちは広範囲でイメージがとらえにくい。テーマを絞ったブランディング等が必要 ○テーマを絞ったブランディング、小田急等を活用した広報展開必要					●「芸術のまち」としてまだまとまりに欠けている	●「芸術のまち」としてのまとまりにはまだかける ⇨新百合ヶ丘は素晴らしい文化環境 ●麻生区は「行くところより帰るところ」というイメージ  ●芸術文化はテーマが広すぎる。テーマを絞ったブランディングが有効か  ●文化に理解の深い人が多い
	①文化担当官の設置	①文化芸術専門コンシェルジュ機能	①情報を取りまとめて発信する機能が必要	①麻生市民館の社会教育主事の機能の復活が近道ではないか	①行政ではなくボランティアが文化担当官を担う ○例えば21ホールにあるNPOカワサキアーツを活用し、練習場の情報管理などを行う	①支える人達の組織化、ネーミング、巻きこみが大切 ○「見える化」のために必要だが、それを支える人達の組織化、ネーミング、巻きこみが大切	①行政に芸術・文化を積極的に先導していく人材を置く必要がある				①文化情報がどこで誰に尋ねればいいのかわかるようにしたい ○多くの情報が掲載されている「しんゆり芸術のまちづくりフォーラムHP」をもっと活用し、掲載方法やHPのPRが必要。	●以前の「社会教育主事機能」の復活が近道 ●文化芸術専門コンシェルジュ機能が必要 ●支える人たちの組織化、ネーミング、巻き込みが必要 ●文化担当官を行政が担う、ボランティアが担うというそれぞれの意見があった
	②麻生文化会議の設置	②音楽団体どうしが仲良く集まって協力関係ができると良い ○文化団体にとっては芸術団体のレベルの高い公演とかWS、指導を受ければレベルアップになる。団体にしてみれば集客につながる。	②分野別団体間のつながりから始める ○分野別団体間のつながりから始めてはどうか  ②アートセンターが中核機能としての役割を果たす	②既存組織の活用で実現できるのでは ○相互協力:しんゆり・芸術のまちづくりフォーラム ○情報発信:NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり			②団体間をつなげる工夫と若者の参加が大事				②団体間のつながりをもつための会議を設置 ○現在の活動に満足している人も多く、他団体とのタイアップは難しい。横の連携としての会議は必要	①②文化担当官や(仮)麻生文化会議の設置は重要 ○担当官や文化会議を中心とした仕組みが出来るとよい ○市・区の文化協会の仕組みを参考に進めると良い
③情報発信・活性化(観客条例見直し)	③規制に基づいた綺麗なポスター、のぼりであればもう少し広報できれば	③「芸術・文化」の雰囲気を感じられるよう、新百合ヶ丘駅からアートセンターまでを結ぶ ○道程にのぼり旗を立てるなど、アートセンターに足を運ぶ道筋をつくる必要がある。		③公共性や芸術的観点から広報イベントを選定し、届け出により管理しながら掲示したら良い  ③駅からアートセンターまでの道路にのぼり旗を立てても良い	③大胆な「まちづくり」の発想必要 ○市や区による大胆な発想に基づく「まちづくり」の視点が必要(例:相模原市「ユニコムプラザ」)	③小田急線駅内の広報を利用する必要がある	③住民への浸透については、駅や駅周辺の賑わいづくりが必要 ○小田急電鉄との協力による駅構内掲示、電車発着音 ○ペDESTリアンデッキで常時何か(演奏や絵の展示など)を行えると良い。提言は指示すできる。	③小田急線沿線駅構内にポスターが貼れると良い	③新百合ヶ丘北口は大いに改造する必要がある ○広告の仕方として、のぼり旗方式よりもヨーロッパのような芸術的な表現が良い	③特に駅北側の賑わい・情報提供について向上を望む	●大胆なまちづくりの発想が必要  ●駅～駅周辺～アートセンターなど芸術文化の雰囲気を感じられる工夫が必要  ●規制に基づきイベントを選定し綺麗なポスター、のぼりで広報  ●駅北側の賑わい・情報発信  ●小田急沿線駅構内の広報	

「芸術・文化関連団体等ヒアリング実施結果」(まとめ) ②

種別 担当 実施日	芸術団体		芸術教育機関				市民演奏団体			市民文化団体	まとめ
	日本オペラ振興会	劇団民藝	日本映画大学	昭和音楽大学	玉川大学	和光大学	ゆりがおか児童合唱団	麻生フィルハーモニー	麻生合唱団	麻生文化協会	
	音楽(歌劇) 菅原、山田、石井 5月22日	演劇 菅原、菅野 5月8日	映画 東川、金光、武濤 5月20日	音楽 菅原、石井 5月29日	芸術 山田、矢野、武濤 5月17日	菅原、菅野、高橋(庸) 6月18日	音楽 菅野、高橋(庸)、武濤 5月19日	金光、高橋(庸)、石井 5月26日	音楽 菅原、石井、東川 6月8日	文化全般 金光、矢野、武濤 5月23日	
2. 若者や子供など多くの市民が楽しめる芸術・文化のまちづくり	<p>●夏休みの子ども向け鑑賞教室、WSは可能</p> <p>●音楽家、芸術化の住みやすいまちが出来ること良い ○例: アメリカテネシー州は、3,000のレコーディングスタジオのお店があり、音楽家が数多く集まっている。</p>	<p>●稽古場を開放し、地域の人達が日常的に足を運んで来やすい場をつくれぬか検討中</p> <p>●若者は忙しく金銭的にも余裕がない。 ⇒昔関心のあった人達をもう一度ファンにする。</p> <p>●会員制にして、観客を育てる</p> <p>●若者が「いつか戻ってきたいと思えるまち」づくりが必要</p>	<p>●若者が自主的に参加するしかけが必要</p> <p>○新百合映画祭では、①ジュニア映画ワークショップ、②パリアフリー上映、③野外上映会を実施しており、これらが特徴的な3本柱である市民映画祭として20年近くの歴史を築いてきた。</p> <p>○アルテリッカ(しんゆり芸術祭)は、若い人たちが参加し楽しめる企画が少ない。若者の発想を入れた企画が必要。</p> <p>○NPOLしんゆり・芸術のまちづくりが行ってきた大学生インターンシップや、臣と臣まちづくり財団とNPOLしんゆり・芸術のまちづくりが協働でスタートさせたTMOなどの大学生を巻き込んだ活動は参考となる</p>	<p>●夏休みにアルテリッカ子供版を開催したい</p> <p>●麻生文化協会が実施する子供向けワークショップに協力する</p>	<p>●さまざまな立場の人々、世代を超えた人々が集結することで生まれるパワーを生み出し、生かす</p> <p>●小学生などを対象に「住みやすいまち」のイメージを絵にして貰い展示</p> <p>●小中高生を巻き込んだ「しんゆりアートマップづくり」 ○例: 町田市町内会フラッグアートづくり</p> <p>●ボランティアや協力者のネーミングも重要 ○例: 富良野演劇工場 ALの会</p> <p>●長期的視点による計画をもとに、若い人たちが主導の取組みを見つけて後押しする ○例: 相模原市では市民がアイディアを出し、行政がサポートしている。相模原市民文化財団広報誌を毎月新聞6紙に織り込みで市民に配布している。</p>	<p>●大学生がしんゆりに関わってほしいと思える活動の場をつくりたい</p> <p>●区民や学生が参加できるWSを計画しながらりもち、人も育てる</p> <p>●文化・芸術を思いをもつて外に発信する姿勢が問われている</p>	<p>●地域で心癒される機会(企画)を増やす ○育児、介護で家を空けづらい人たちが都心まで出るのが億劫な高齢者などが地元で心いやされる機会(企画)を増やして欲しい。</p> <p>●駅周辺で「いつも何か」行われている状態を目指す ○既存ワンコインコンサートや区役所ミニコンサートを増やし、駅周辺で「いつも何か」行われているというくらいまでになると良い。</p> <p>●日本映画大学・昭和音大のコラボなど、ジャンルを超えた企画</p> <p>●麻生音楽祭に軽音楽を加えれば中高生の参加が増える可能性あり</p> <p>●皆が聴き合う工夫が必要</p> <p>●子供たちの組み込みは重要</p>	<p>●中学生、高校生を招待しているが、引率の先生が必要となるため難しい</p> <p>●町内会単位で招待することは可能</p>	<p>●渋谷、原宿などの良いところを取り入れて若者にとっての魅力をつくる</p>	<p>●区民に対する情報発信を行い、参加を促している</p> <p>●児童・若者を対象とした取組みは既にしている ○伝統的な遊びや踊りについて指導者が小学校に行き指導している ○夏休み親子教室には、毎年小学生親子約600名参加 ○本年度、初めての試みとして、和光大学等の学生ボランティアに手伝って貰う予定</p>	<p>●音楽家、芸術家の住みやすいまちづくり</p> <p>●地域で心癒される機会(企画)を増やす</p> <p>●若者が自主的に参加するしかけが必要</p> <p>●若者が「いつか戻ってきたいと思えるまち」づくりが必要</p> <p>●駅周辺で「いつも何か」行われている状態を目指す</p> <p>●日本映画大学・昭和音大のコラボなど、ジャンルを超えた企画</p> <p>●麻生音楽祭に軽音楽を加えれば中高生の参加が増える可能性あり</p> <p>●皆が聴き合う工夫が必要</p> <p>●子供たちの組み込みは重要</p> <p>●夏休みにアルテリッカ子供版を開催</p> <p>●渋谷、新宿などの良いところを取り入れる</p>
3. 活動上の問題点、川崎市や麻生区への要望など	<p>●ワンランク上の文化事業をしていくには文化事業の予算化必要 ○文化、芸術活動は基本的に黒字を出すことが難しい。</p>	<p>●ふれあいカードシステムの利便性の向上</p>	<p>●ひとつの駅を拠点として、音楽大学と映画大学が存在することの素晴らしさや可能性をもっと認識する必要がある ○大学を活用した芸術のまちづくりについて行政のグランドビジョンをつくるため、区民は議員と連携し働きかけるべき</p> <p>●区内、市内の枠で考えると広がらない。国際化、グローバル化がキーワードとなる ○戦略的思考を持ったプロデューサーが必要</p>	<p>●市・区役所と力を合わせて芸術のまちづくりに協力したい</p>	<p>●イベントを単発で実施するのはエネルギーの分散。住民が孤軍奮闘するだけでは「高齢化」「エネルギー、資金、協力者などの減少」という問題は避けて通れない。</p> <p>●市や区がより積極的に、国の政策や方向性の流れに合致しつつ、オリジナリティを持った戦略を立てて、活動を支援していくことが大切。</p>	<p>●行政が旗振り役となり「まちづくり」に力を発揮してほしい</p> <p>●アートセンターの役割を「文化・芸術のまち」の運営まで広げてはどうか ○実際には市が管理・運営しており麻生区独自に検討ができない。改めるか工夫していくべきではないか。</p>	<p>●麻生区民館の老朽化による建て替え ●麻生区民館の継続利用団体への便宜 ●日営利目的の公演の広報誌への掲載 ●新百合ヶ丘南側でのチラシ設置、情報発信のしかけづくり</p>	<p>●音楽の街「あさお」を標榜しているにしては、練習場所が少ない ○現在、区内幼稚園や稲城市や横浜市等の音楽ホールを借りて練習している。</p> <p>●500席程度の音楽ホールがあるとありがたい ○横浜市各区文化会館などでは、リハーサル室、練習室が併設されている</p>	<p>●「芸術のまち麻生」を標榜するのであれば目標(ゴール)を期待したい ○例えば北口駅前には広場機能、市民館に防音ホール・練習場、地下鉄延長など総合的な再開発に期待</p> <p>●市民館の機材や設備を充実してほしい</p> <p>●練習場所を探すのが大変である ○区内幼稚園を借りているが、行事で使用できない時には他市・区で練習場所を探している</p>	<p>●練習・活動場所の確保に苦勞している団体が多いと聞く。改善が望まれる。</p> <p>●国際化、グローバル化がキーワード ●国、市の施策の方向性を踏まえつつ、区のオリジナリティの創出 ●「芸術のまち麻生」が目指す目標に期待 ●行政の予算付け ●音楽大学と映画大学双方が存在する素晴らしさを活かす ●活動団体の練習場所の確保 ●音楽ホールの整備 ●麻生区民館の老朽化による建て替え・設備の充実 ●麻生区民館の継続利用団体への便宜 ●区のためのアートセンターの役割 など</p>	